

平成 26 年 7 月 28 日  
第 2 回遠野市総合計画審議会資料  
経営企画部企画・秘書広報担当

## 遠野市新エネルギービジョン策定の進捗状況について

### ○背景

平成 23 年 3 月の福島第一原子力発電所の事故により、エネルギー需給バランスが崩れ、計画停電が実施される等、エネルギーを巡る環境は大きく変化している。わが国のエネルギー供給体制は、“大規模集中型”で進められてきたが、災害時における対応や効率的なエネルギー供給を考えた場合、欧米先進諸国のような“自立分散型”への割合を高めていかなければならない。

また、国富流出や温室効果ガス削減等の観点から、化石燃料の消費を少しでも遅らせるとともに、それに代わる新エネルギーを創造することが必要となっており、平成 24 年 7 月には固定価格買取制度が導入される等、再生可能エネルギーへの期待が高まりを見せている。

再生可能エネルギーが地域にもたらす効果等を具体的に把握し、遠野市において地域の産業振興や自立分散型エネルギーシステム構築に向けてポテンシャルが高い資源を特定し、新エネルギー導入を推進していく必要がある。

### ○ビジョン策定の目的

本ビジョンでは、下記目的の実現を目指す。

#### ①新エネルギーの導入による地域経済循環の実現

林地に捨てられている間伐材や工場残材等(おが粉やバーク等)、家畜から排出される糞尿等、地域の一次産業と密接に関わるエネルギー資源を最大限に活用することで、新エネルギー導入の促進と地域経済循環による産業振興を推進する。

#### ②自立分散型エネルギー供給体制による安全・安心な住民生活の確保

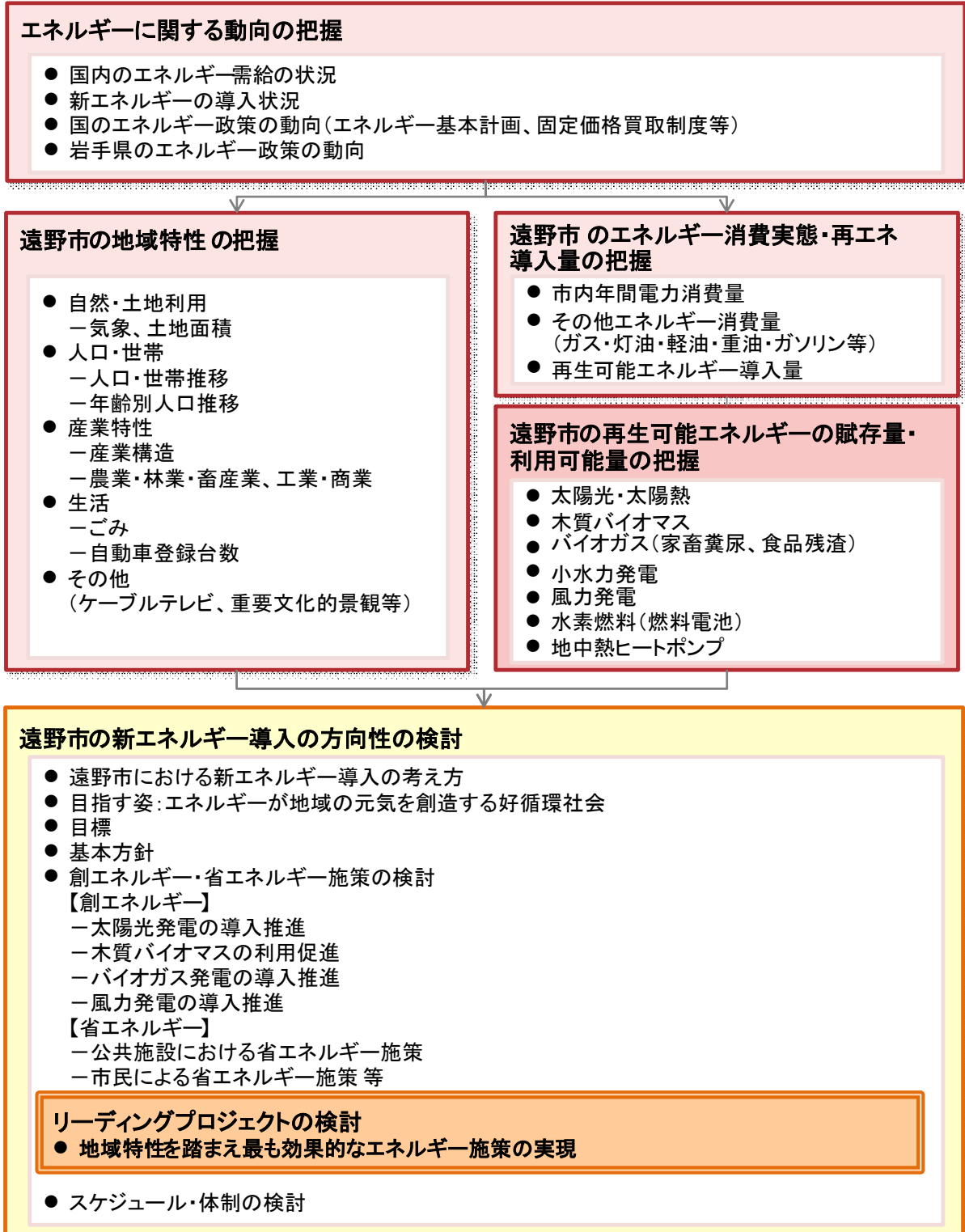
自立分散型発電等の熱利用を含めた地域独自の安定したエネルギー供給体制を確立することで、災害時においても、防災拠点へエネルギー供給を可能とする等、住民が安全・安心に暮らすことができる社会を目指す。

#### ③地域の環境保全に資するエネルギー施策の推進

市民の省エネルギー意識を高める取り組みや化石燃料に頼らない新エネルギーの導入によって地球温暖化防止に向けた取り組みを推進するとともに、“永遠のふるさと遠野”の実現に向けて地域の景観との調和にも配慮したエネルギー施策を推進する。

## ○新エネルギービジョン策定に向けた実施項目（ビジョンの体系）

以下項目の調査・把握を行い、本ビジョンを策定する。



## ○遠野市の新エネルギー導入の方向性

---

- 遠野市における新エネルギー導入の考え方

家畜の糞尿、山に捨てられている間伐材、食品の残渣など、多くのエネルギー資源が活用されずに捨てられている。この資源を再生可能エネルギーとして活用し、温室効果ガスの削減、エネルギーの自給、雇用の創出、資本の流通等を促し、好循環型社会を目指す。

また、限られたエネルギーを有効活用するためには省エネルギー施策も重要であることから、創・省エネ施策にバランスよく取り組み、地域独自の安定したエネルギーの供給体制の確立に努める。

- 目指す姿(暫定)

- －エネルギーが地域の元気を創造する好循環社会

- 目標(暫定)

計画最終年度(平成 37 年度)までに下記指標の実現を目指す。

- －再生可能エネルギー導入量を現在の3倍以上

- －年間のエネルギー消費量を現在の 15%以上削減

- 基本方針(暫定)

- －1次産業の再生、雇用創出につながる政策を優先

- －自然環境との調和を図るため一定の対策を検討

- －持続可能な事業とする新たなシステムを構築

- －省エネ啓発事業を推進

- －災害に強いエネルギー施策を積極的に導入

- 創エネルギー・省エネルギー施策

## ○リーディングプロジェクト

---

### (1)リーディングプロジェクトの考え方

リーディングプロジェクトは、市内で再生可能エネルギー利用を普及させていくための優先事業として位置づけ、ポテンシャルの高い資源や条件の整った場所における取り組みとする。これらを進めるにあたっては、地域産業と密接に関わるエネルギー資源を活用することを前提とし、地域産業の現状や課題を踏まえた上で、地域産業の振興に資するプロジェクトの実現を目指す。

(2)リーディングプロジェクト(案)

プロジェクト①	木質バイオマス・サプライチェーンの構築プロジェクト
プロジェクト概要	<p>本プロジェクトは、本市が有する豊富な森林資源を活用し、木質バイオマスの燃料供給からエネルギー利用までのサプライチェーンを構築するものである。市内に木質バイオマス燃料供給拠点を構築するとともに、公共施設等へ木質バイオマスボイラーを導入して需要側の整備も進める。</p> <p>この際、地域内で確保可能な燃料の特徴を把握するとともに、施設の熱需要に適したボイラーを導入することとし、地域性、採算性、継続性を踏まえた木質バイオマス・サプライチェーンの構築を行う。</p>
ポイント	<p>■木質バイオマスの燃料供給の体制整備により持続可能な仕組の構築</p> <p>■木質バイオマスの有効活用による地域の環境保全</p>
主要事業	<p>－木質バイオマス燃料供給体制の整備</p> <p>－公共施設及び市内事業所への木質バイオマスボイラーの導入事業</p>

※ サプライチェーンとは？ … 原材料が生産されてから、最終消費者に届くまでのプロセス。

プロジェクト②	家畜糞尿によるバイオガス発電プロジェクト
プロジェクト概要	<p>本プロジェクトは、地域内の家畜糞尿を利用したバイオガス発電プラントを導入し、売電収入を得るものである。さらに、発電時に発生する熱を利用した高収益農作物栽培や消化液を液肥利用することで農業の高付加価値化を図るプロジェクトである。</p>
ポイント	<p>■バイオガス発電の売電収入等による新たな収益の確保</p>
主要事業	<p>－バイオガス発電プラントの導入事業</p> <p>－排熱利用による農作物栽培事業</p> <p>－農家による液肥利用の検討事業</p>

プロジェクト③	太陽光発電による地域還元モデル構築プロジェクト
プロジェクト概要	<p>本プロジェクトは、地域の遊休地等を活用したメガソーラー発電を行い、発電事業で得られる売電収入の一部を基金化し、地域産業の基盤強化への活用を目指すものである。</p> <p>市内にはメガソーラー発電候補地が複数存在するため、“永遠の日本ふるさと遠野”の景観に配慮し、最適な場所を選定した上で、地域還元型のメガソーラー発電事業を推進する。</p>
ポイント	<p>■地域産業基盤強化に活用できる資金の確保</p>
主要事業	<p>－景観への配慮の観点から、事業を行なわないよう協力を求める区域を検討</p> <p>－遊休地等を活用したメガソーラー発電事業</p> <p>－地域産業基盤強化に向けた基金の設立</p>

<b>プロジェクト④</b>	<b>再生可能エネルギーの市内への啓発プロジェクト</b>
<b>プロジェクト概要</b>	本プロジェクトは、市内(住民・事業所)への再生可能エネルギー導入促進を目的として、公共施設等に木質バイオマスボイラーや太陽光発電などを導入して、これらの公開・視察の受入等を行う。さらに市民向けには相談窓口の設置や省エネ機器の展示等を検討して市内への啓発を図っていく。
<b>ポイント</b>	■再生可能エネルギー利用促進に向けた市民・事業者への普及啓発
<b>主要事業</b>	－新庁舎への各種設備導入事業 －水光園への各種設備導入事業

<b>プロジェクト⑤</b>	<b>防犯灯・街路灯 LED 化プロジェクト</b>
<b>プロジェクト概要</b>	本プロジェクトは、市内の外灯の消費電力を抑制することを目的に、計画的に LED 化を実施するものである。防犯灯、街路灯、道路照明など、用途によって照明の点灯時間、照度等が異なることから、各外灯の運用状況を適正に調査し、最適な機種を導入するよう検討を行う。 また、民間で管理している外灯の LED 化を推進する施策についても、あわせて検討を行う。
<b>ポイント</b>	■市内各地に設置されている外灯の省エネ化
<b>主要事業</b>	－防犯灯 LED 化事業 －街路灯 LED 化事業 －道路照明 LED 化事業

### ○新エネルギービジョン策定に向けたスケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>新エネルギービジョン作成</b>			→	→					
<b>パブリックコメント</b>			----→						
<b>総合計画審議会</b>	●				●				

- 9月中旬 パブリックコメント
- 11月上旬 ビジョン原案説明会(職員対象)
- 11月中旬 総合計画審議会へ最終案を協議
- 11月下旬 ビジョン確定  
議員全員協議会へ報告
- 11月下旬 ビジョン確定